

留学生からの質問事項



宮下 亮善

アジア地域でボランティア活動を顕彰する『西日本国際財団』の事務局からの申し出で、明治維新150年にあたり、西郷隆盛子孫の話を聞きたいと相談を受けました。それは、福岡の各大学に來ている留学生からの要望だとのことでありました。早速、曾孫である西郷隆夫氏を紹介しました。

この西日本国際財団は、毎年、福岡在住の留学生を対象に九州各県を回り異文化交流を図っています。今回は鹿児島で、『沈寿官窯』と『南泉院』に30名の留学生が訪れ交流を図りました。

そこで、西郷隆盛について、事前に質問事項が届きました。

(1) ラスト・サムライについて知りたい(インド)。

(2) なぜ西郷隆盛はラスト・サムライと呼ばれているのか(インド)。

(3) なぜ日本のサムライは突然消滅したのか(インド)。

(4) 現代日本においてもサムライの子孫は生きていると思うが、現代におけるサムライの意味とは何か、なぜなら江戸時代にはサムライにとって富や金はあまり重要ではなく、名誉や忠誠心を重んじており、日々の生活は妻が取り仕切っていたが、現代ではお金が個人が生きていくのに最も重要だと信じられているから(インド)。

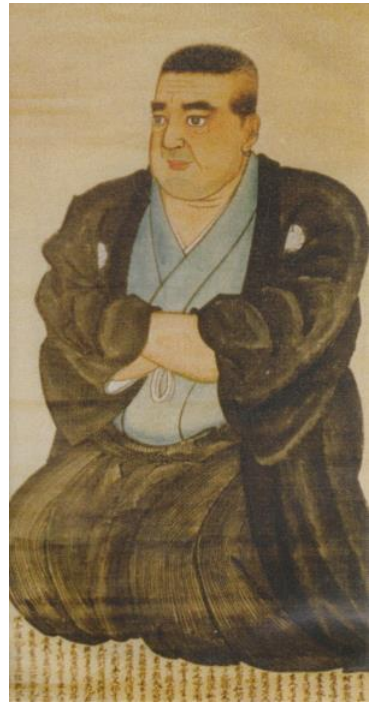
(5) 西郷隆盛の生きた時代、人生、生きざ

まについて知りたい（インド）。

(6) 西郷隆盛はどうやって当時の会津藩とともに長州藩から京都御所の天皇家を守り抜くことができたのか（インド）。

(7) なぜ西郷隆盛は征韓論を唱え、韓国を開国させようとしたのか（インド）。

(8) 西郷隆盛の最後について知りたい。西郷は西南戦争の最後に傷を負い別府晋介に介錯を頼み自殺したとされているが、一部の学者は西郷は傷を負ったときすでにしやべることができなかったという説をとえている。そのとき、仲間の武士たちが名誉ある死を西郷は選んだとして死んでから介錯したとの説もある。本当はどうなのか、西郷隆盛の子孫の方にお聞きしたい（インド）。



『西郷どんの肖像』
肥後直熊・画

(9) 西郷隆盛は映画の『ラスト・サムライ』のモデルになっていると思うが、映画はどれだけ真実に近いのか（韓国）。

(10) 西郷隆盛の二度目の追放の理由は何ですか、久光公からの申し出を拒否したからですか、その後、久光公の申し出を受け入れたから1864年に釈放となったのですか（ヨルダン）。

(11) 西郷隆盛が亡くなった原因は何ですか（インドネシア）。

(12) 1877年の薩摩士族の反乱の際、西郷隆盛は日本の将来について、どういうビジョンを持っていましたか(ヨルダン)。

(13) 西郷隆盛の反乱とその後の経過は薩摩の人たちの生活にどのような影響を与えましたか(ヨルダン)。

(14) 薩摩の人たちは日本の伝統を守るサムライとして西郷隆盛を尊敬していたのでしょうか、それとも西郷が自分の国を作るべく野心を持った反乱分子とみていたのでしょうか(ヨルダン)。

以上、14項目についての質問事項。留学生たちの勉強ぶりが伺えます。

小生、K大学の非常勤講師として教壇に立っていますが、この14項目の質問事項を学生たちに紹介し、どれだけ答えられるか質問してみました。誰も挙手するものがない、

何回も促すが返事がない。『君たちと同じ現役の留学生だよ、誰も答えられないのか』質問を変えて『西郷隆盛は知っているか、どんな人物か』との問いにも返事なし、どうにも話がかみ合わない。受験勉強偏重の弊害が如実に現れている現状を思い知らされ、頭を抱え込む思いがした。

これでは、日本人としての『誇り』を持つどころではない。日本人が日本の歴史を外国人に教えてもらう時代が到来しているかも知れない。受験対象外の科目は忘れさられる。歴史、地理などの基礎知識は自国、他国をも理解する上で不可欠なものである。

留学生たちは、日本に来る前に、もしくは、日本に来てから日本の歴史を、西郷隆盛のことを、学んだものと思われます。広い教養をもった日本人の育成が成されていない。

ここに、新聞の掲載記事を抜粋して、紹介

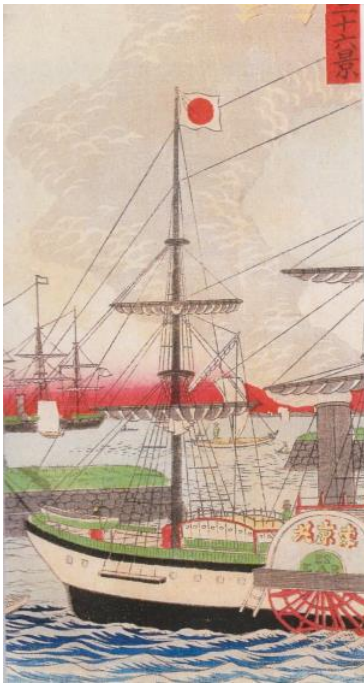
します。

『教室の現実』——「アシカガ・ヨシミツ
つて知っている」、イギリス中部にある名門ウ
オーリック大学。4年前、国際政治を学ぶた
め留学していた男性(24)は、日本の歴史
に関心を持つ外国人学生から聞かれ、質問に
窮していた。英語が苦手だったわけではない。

『足利義満』の名は頭に浮かんだが、室町幕
府の將軍だったことも、金閣寺を造営したこ
とも思い出せなかったのだ。「トクガワ・イエ
ヤス」の質問にも、「いたね」と

返すのが精いっぱいだったとい
う。3月に大学を卒業した男性は、

「日本史の基本や流れを身に着け
ていれば説明できたのに、高校ま
で何を学んでいたのか情けなかつ
た」と振り返る。留学する多くの
学生を指導して来た早大国際教養



明治維新後の1870年太政官布告
で、商船に日の丸を掲げることが
定められ、正式に国旗となった。

学部の森川友義教授(54)は、「海外でのコ
ミュニケーションの場で日本の話ができない
留学生が多い」と指摘する。「歴史や文化につ
いて断片的に覚えていても大きな流れをつか
んでいない。説明したり意見を述べたりする
訓練を積んでいないからだ」——入試対策で
得た学力と、国際化が進む社会や大学で求め
られる学力に深刻なギャップが生じている。
海外生活を経験した人々や、海外で活躍す
る人々にとって、祖国なり、自国なりを外か

らみると否応なく、日本人とは、日本文化とはと、自然に意識するものである。ところが、海外に出て「日本人はどのような人々ですか」と問われて、どのように答えたらよいものか、説明できる日本人がどれほどいますでしょうか。

たとえば、国旗や国歌の意味、浮世絵、雪月花の心、茶道、華道など、どのように誇りを持って、語るができるでしょうか。

かつて、ミャンマーの山岳地域で教育支援活動をしている現地のプロジェクトマネージャーが、一年の仕事を終えて帰国しました。その彼女が「和尚、非常に恥ずかしい思いをしました。自分は日本人でありながら、日本のことを、何一つ話すことができなかった」と、語っていました。

国際交流とか、国際貢献とか、昨今よくいわれておりますが、海外交流の隠れた大きな

目的は、自国の文化を学び『日本人とは何ぞや』と、自覚することでもあります。自国の文化や歴史を尊重するということは、他国の文化や歴史を尊重するということにも通じるのです。

気候や風土や歴史が異なれば、文化、宗教、言語、民族性、国民性、人々の生活様式も異なり、人生観、歴史観、価値観も多種多様な感性が育まれてくるわけです。

文化とは、「文物教科」つまり、それぞれの地域の気候風土の中で培われた人々の感性であるといえます。換言すれば、織りなす綾の飾りの模様といえます。文明とは、その地域の文化が、時間的、空間的広がりを形成し、その時代をリードする感性が形成されていく『態』と、理解されます。

いずれにしても、自国を知ることが、彼の国を知ることになり、そのことが相互理解を

深め、国際貢献に資するものと思います。昨今は、クロスカルチャー・文化交流の時代といわれておりますが、決して、それぞれの文化を平準化・均質化することではなく、それぞれの文化の優劣をはかるものでもなく、それぞれの特性を尊重し、よりよく理解し、国際社会に貢献する時代でもあります。

『互いに交われば、相互に理解できると単純に考えている日本人があまりに多い、世界はもともとと狭くなり、お互いに肩をふれあい、話し合う機会はますます多くなり、日常のこととなるかも知れない。だが、それが相互理解に通ずるなどと、絶対に安直に考えてはならない。もし、そうであるならば、ユダヤ人は2千年も西欧人と肩をふれあつて生きていたのである。』——イザヤ・ベンダサン
の言をまつまでもなく、いまだに中東問題は混迷を深めている。また、日本を取り巻く東

アジアにおいても独裁者が跋扈する国際情勢を俯瞰するとき、冒頭の留学生14の質問事項にたいして、誰一人明確な意志をもつて答えてくれなかった日本人学生に失望と、この国の将来に危惧を抱く思いでした。

NHK大河ドラマ『西郷どん』で盛り上がっております。観光も良し、経済効果もよし、鹿児島にあつて西郷隆盛を知らない人も多くいます。時代考証がどうの、西郷さんと月照和尚がどうのと、世間は姦しいですが、あくまでもテレビドラマの話、何も憤慨する必要ありません。この『西郷どん』を気に、学ぶ好機と受け取るべきと思います。

『南洲翁遺訓』に、「正道を踏み、国を以て弊るるの精神なくば外国交際は全かるべからず。彼の強大に委縮し、円滑を主として曲げて彼の意に順従する時は軽侮を招き、好親却て破れ、遂に彼の制を受くるに至らん」。西

郷どんの遺訓、今に光るものがあります。

かつて、韓国の大学生と2週間ホストファミリーとして生活をともにしました。彼ははつきり西郷隆盛は「征韓論者」だから、韓国では良く評価されていないと。果たして、これにははつきり反論する日本の大学生がいるのか心もとないものを感じています。

大学での海外研修の事前講義では、『日本人とは何ぞや』『尊敬する歴史上の人物は』『あなたの宗教は』などと問われたら、即座に答えるだけの自信と見識を持つように事前に学習するように指導しています。

外国人との付き合いや交流には、余計な『忖度』は必要ありません。はつきり自身の考えや意見を述べることは大事な事であるし、かえって、信頼され尊敬もされます。このことは、小生自身の経験によるものです。

広い視野を持った若い教養人の育成が急

務かと、つくづく感じる今日この頃です。

明治維新150年の記念事業が企画されています。それぞれに意義のあることとは思いますが、残念ながら、次代を担う人材育成の記念事業が見受けられません。

郷中教育の殿堂をつくり、学校教育のカリキュラムと連携し、鹿児島独自の教育システムはできないものでしょうか。萩の明倫館小学校における『吉田松陰先生』の教えの学び、足利学校の『論語』の素読など、現代社会に先人の遺訓が活用されています。『教育は建国の基礎』です。(天台宗大雄山 南泉院住職)

